

NEC・南紀白浜AP・オリコンサル

# 舗装点検に路線バス

## 一般道で実証実験開始

日本電気（NEC）と南紀白浜エアポート、オリエンタルコンサルタツの3社は、第5回「インフラメンテナンス大賞」の国土交通大臣賞を受賞した「ドライブレコーダーを活用した空港滑走路の調査及び点検」技術を、一般道路の舗装調査と点検に展開する実証実験を10日から始め

る。1カ月間の実証期間で精度を確認した上で、国や地方自治体などの道路管理者が定期的に点検車で実施している目視点検の一部を「AI（人工知能）による自動検知」に置き換えることを目指す。実証実験は、南紀白浜空港と串本や世界遺産の熊野古道や熊野三山を直結する、熊野

御坊南海バスが運行する空港リムジンバス（南紀白浜空港～JR新宮駅間103キロ、1日2往復走行）にドライブレコーダーを設置して行う。バス運行時に走行する国道42号と紀勢自動車道の路面状況をドラレコに記録し、その画像から学習を重ねたAIが、ひび割れやポットホールといっ

たき裂・損傷を自動検知する。同時に道路の平坦性（IRI＝国際ラフネス指数）も計測する。実証期間は4月9日まで。延長する場合もある。

オリコンサルなど3社は、旅客輸送という路線バス走行の目的に、道路の調査・点検を新たな機能として付与することで、旅客数が少なく路線の維持が困難なケースも多い地方での路線バス走行に新たな価値を創出。老朽化が進む舗装の維持管理の効率化と路線バスの運行業務の多機能化を同時に実現することで、地方のインフラ事業者に夢と希望を与える取り組みを目指す。